

1. 学校教育目標の具現に向けて、全職員で取組のあり方を考えよう

ワーク

1 学校教育目標の具現に向けて、必要な人的・物的資源等を確認しよう

自校の強みと弱みを書き出しながら、現状を分析（SWOT分析）しましょう。そして、自校の現状とグランドデザインから、児童生徒の「目指す姿」「育みたい資質・能力」を考えます。

SWOT分析とは

内部環境と外部環境に由来する要素を洗い出し、現状を分析していく手法です。自校の可能性や見逃していた強み、弱みに気づかせてくれる手法ともいえます。

【内部環境】

運営計画・人的物的資源・資金・情報組織体制・組織風土 など

【外部環境】

歴史・文化・自然・産業・保護者・地域の方々・近隣学校・関係機関 など



自校の現状分析と課題把握			
学校名	児童生徒数 約 名	教職員数 約 名	氏 名
1. SWOT分析			
	内部環境		外部環境
プラス面	内部環境 強み (Strengths) ・運営計画 ・人的物的資源 ・資金・情報・組織体制・組織風土など		外部環境 機会 (Opportunities) ・歴史・文化・自然 ・産業・保護者 ・地域の方々・近隣学校 ・関係機関 など
	マイナス面	弱み (Weaknesses) ・運営計画 ・人的物的資源 ・資金・情報・組織体制・組織風土など	
2. 自校のよさや改善策			

手順の例

- ①学校の現状を付箋に書いて、四つの要素に分けて貼り付けていきます。
- ②SWOT分析をもとに、自校のよさや改善策、児童生徒の「目指す姿」「育みたい資質・能力」を考えていきます。



動画で詳しく

NITS 学校組織マネジメント I



1. 学校教育目標の具現に向けて、全職員で取組のあり方を考えよう

ワーク

2 グランドデザインを作ってみよう

自校の強みと弱みから「目指す姿」「育みたい資質・能力」という目標と「そのためにどのような教育活動(取組)を計画、実施するか」という方法を整理しながら、カリキュラム・マネジメント構想図を作ってみましょう。

カリキュラム・マネジメント構想図	学校名	作成者
本校の現状	強み	弱み
育みたい資質・能力、目指す姿		
具体的な取組		
カリキュラム・マネジメント3つの側面から		
教科横断的な視点からのアプローチ ※「総合的な学習の時間」「生活科」は中核となるので、可能な限りこの用紙位置付ける。	PDCAサイクルの構築からのアプローチ(特にOとAの仕組み作り)	人的・物的資源等(地域等の外部の資源も含め)の効果的に活用、組み合わせの視点からのアプローチ
ここに示すように、付箋を色分けしながら使い、この用紙に貼ります。付箋同士をまとめたり、線をつないだりしながら、自由にレイアウトしてまとめてください。		
その他 上の3つに当てはまらないことがあればその他として位置付ける。		

手順の例

- ①自校の強みと弱みから、児童生徒の「目指す姿」「育みたい資質・能力」を考えます。
- ②そのための具体的な取組を考えます。その際、「教科横断的な視点」「PDCAサイクルの構築」「人的・物的資源等」「その他」の視点からのアプローチを色分けしながら付箋に書き、貼っていきます。
- ③付箋を動かしながら、自由にレイアウトしていきましょう。
- ④それぞれの考えを集約しながら、カリキュラム・マネジメント構想図を作成しましょう。



カリキュラム・マネジメント構想図をもとに、学校の現状や教育活動の方向性について、全職員で共有しながらグランドデザインを作っていきます。

また、学校目標やグランドデザインと自ら(個々の教職員)の関わりについても、確認しましょう。

ワークシート2



1. 学校教育目標の具現に向けて、全職員で取組のあり方を考えよう

ワーク

3 学校教育目標と学年経営・学級経営・教科運営との関係と、自らの関わりを確認しよう

それぞれの教職員が担当する校務分掌が、「学校教育目標の実現にどうつながっているか」という広い視野から教育活動全体をとらえ、自分のすべきことを明確にしていきましょう。

ポイント

- 自分の校務分掌が学校教育目標の実現にどうつながっているか
- 学校教育目標の実現のために
 - ・ 求められていることは何か
 - ・ どんな取組をいつまでに行うか
 - ・ 連携できる係等とどのような協力をしていけばよいか

などについて、職員同士で情報を共有しながら取り組んでいきましょう。



A小学校での取組

学校教育目標「楽しい 豊かな A小学校」

- ずくある「丈夫な子」 ○ねばり強い「かしこい子」
- 美しさがわかり「思いやりのある子」 ○力を合わせて「助け合う子」



全職員でランドデザインを再検討して、教育活動に関わる認識を共有しましょう。また、学校目標に向けて、職員みんなで子どもたちを育てるという意識を持ちましょう。



これまでの研究テーマは、多くが盛り込まれすぎて、分かりづらいので、新学習指導要領やコロナ禍であることを踏まえながら、シンプルにまとめ直しましょう。

全校研究テーマ「主体的に学び、協働的にかかわれる子どもの育成」

1. “体力・健康”の向上
2. “学力”の向上
3. “コミュニケーション力”の向上



“学力”の向上に関わって自主学習ノートに取り組みます。家庭との連携、ノートの紹介など、継続していくための工夫もしていきましょう。ノートの左側はパッチリメニュー（授業内容の復習）、右側はわくわくメニュー（自分の学びたいこと）を進めてみようと思います。



“コミュニケーション力”の向上に関わって、社会科の町探検で出会った地域の方とのつながりを生かし、自分たちで育てた大豆を使ったみそづくりに取り組んでいます。また、学校周辺で採った木の実などを使って、お店を開き、ペア学年や1年生などの他学年と交流しています。



コロナのため臨時休業となってしまったので、学習内容を見直し、学校でしかできない内容とオンラインでもできる内容とを考えよう。同時に、ZOOMを使った会議をひらいたり、オンライン授業について考えたりする職員研修を行おう。

2. 教育課程を考えよう。(カリキュラムマップを作ろう)

自校の「重点とする資質・能力は何か」「どの単元や題材を中心に育成していくか」のイメージを視覚化していきましょう。

カリキュラム・マップを作ることで、子どもたちの学び全体を俯瞰して見たり、重点的に取り組むポイントを確認したりすることができます。

カリキュラムマップ作成の手順

ワーク1-①：単元配列表を作成する。

ワーク1-②：総合的な学習の時間（生活科）を中核として教科等とのつながりを考える。

ワーク1-③：単元配列表をシンプルにして、「どのようにつながるか」を検討する。



ワーク1-① 単元配列表を作成しよう

各教科等の年間指導計画を使い、下の作成例のような一つの表（単元配列表）として表しましょう。

作成例（B中学校の年間指導計画を基に作成）

月/教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事	砂浜宿泊学習		職場体験		りんどう祭		校友会正副会長選挙		校友会行健遊				
国語	見えないだけ アイスマネット	読書力 多様な方法で情報を 集めるよ 熟読の達成	生物が活躍する科学 的かつ合理的な思考 力を用いて メカニクスに付合 うために 読書力/対話力/多様 な視点	新しい知識のために 読書力を用いて 読書力を用いて 読書力を用いて	世界で一番の物語 国主 神話の謎を解く 神話の謎を解く 神話の謎を解く	国主 神話の謎を解く 神話の謎を解く 神話の謎を解く	モティロコ 神話の謎を解く 神話の謎を解く 神話の謎を解く	歴史の謎を解く 歴史の謎を解く 歴史の謎を解く	歴史の謎を解く 歴史の謎を解く 歴史の謎を解く	歴史の謎を解く 歴史の謎を解く 歴史の謎を解く	歴史の謎を解く 歴史の謎を解く 歴史の謎を解く	歴史の謎を解く 歴史の謎を解く 歴史の謎を解く	140
社会	日本の多様な地域 日本の姿	世界から見た日本の 多様な地域 日本の姿	世界と日本の結びつき 東工ネルギーと世界	世界と日本の結びつき 東工ネルギーと世界	ヨーロッパ人の出立 いと全道統一 江戸幕府の成立と 徳川	東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界	東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界	東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界	東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界	東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界	東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界	東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界 東工ネルギーと世界	105
数学	式の計算	連立方程式	二次関数				図形の調べ方		図形の性質と証明		確率		105
理科	物質のなり立ち	物質どうしの化学変化 化学変化がわかる化学変化	化学変化と物質の性質 化学変化と物質の性質 化学変化と物質の性質	生物と環境 動物のからだのつくり 動物のからだのつくり	(継続 調製)	動物の分類 生物の多様性と進化	動物の分類 生物の多様性と進化	動物の分類 生物の多様性と進化	動物の分類 生物の多様性と進化	動物の分類 生物の多様性と進化	動物の分類 生物の多様性と進化	(継続 調製)	140
音楽	夢の世界を	夢の世界を	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	クラシック音楽、学芸会 合唱団合唱	35
総合	『はたらく』ことを考える（70時間） ・どんな仕事があるんだろう ・『はたらく』人たちの思いに惹かれる												70
美術	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	私の得意い	35
保健	体の運動 マリッジゲーム スポーツテスト	陸上競技 水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	水泳 ソフトボール バレーボール バドミントン	105
技芸	次生活と自立(家)	次生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	往生活と自立(家)	70
英語	UNIT 1 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 2 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 3 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 4 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 5 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 6 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 7 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 8 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 9 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 10 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 11 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	UNIT 12 自分の家族(過去形) 家族内(会話を続ける)	140
道徳	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	35

ポイント

○ 記入例のように、総合的な学習の時間（生活科）を中核にすると、各教科等との関連が見やすくなります。

○ 記入例のような『「はたらく」ことを考える』などの年間テーマを自校のグランドデザイン等をもとに設定することで、活動ごとのつながり（横のつながり）を意識しながらデザインしていきましょう。

○ 他学年の単元配列表も確認することで、学習内容の系統性を考えることもできます。



2. 教育課程を考えよう。(カリキュラムマップを作ろう)

ワーク

1-② (1) 総合的な学習の時間（生活科）を中核として、教科等とのつながりを考える。

総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を中核として、育成する資質・能力でつながりのある単元を線で結んでいきます。学校目標や総合的な学習の時間の年間テーマなどから、その年に重点をかける部分の線を赤くすると、より視覚化されます。

また、それぞれのつながりを考えながら、教科等の単元配列の変更も検討することもできます。

作成例

月/教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数	
行事	新学年の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習	新生活の学習		
国語	夏休み明け アスナブネホ	授業中 多様な方法で課題 を追究するよ うな学習の 実践の場	本物の生きた国語 を学ぶ場 を創出する ための 実践の場	新しい学習のための 資質・能力 を育むための 実践の場	世界で一番の国語科 の授業	身近な 生活の 実践の場	メディアを通じた 国語科の 実践の場	国語科の発展 を促す 実践の場	国語科の発展 を促す 実践の場	国語科の発展 を促す 実践の場	国語科の発展 を促す 実践の場	国語科の発展 を促す 実践の場	140	
社会	日本の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	世界の歴史と地理 日本の文化	105	
数学	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	数の計算	105	
理科	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	物質の成り立ち	140	
音楽	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	歌の学習	35	
総合	「はたらく」ことを考える（70時間） ・どんな仕事があるんだろう ・「はたらく」人たちの思いに感じる												70	
美術	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	35	
保体	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	歩く運動 オリエンテーシ ン スポートスタ ン	105	
読家	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	読書と音楽(家)	70	
英語	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	UNIT12 ハロウの伝説(過去)・道案内(現在)・ 道案内(過去)	140
道徳	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	正義をたもつ	35	



社会科の近畿地方の学習は、修学旅行学習に生かせそうですね。1学年で学習した歴史も修学旅行につながりますね。



総合的な学習時間の年間テーマを具現化するために、特に職場体験は大切にしたいですね。関わる部分を赤にしてみましょう。



職場体験後に国語「気持ちを込めて書こう」を配列すれば、お礼状を書くことに生かすことができそうですね。

2. 教育課程を考えよう。(カリキュラムマップを作ろう)

ワーク

1-②(2) 情報活用能力の育成を中核として、教科等とのつながりを考える。(小学校)

言語能力や問題発見・解決能力と並んで学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を中核として、情報活用能力に関連のある単元を、活動活動スキル、探究スキル、プログラミング、情報モラルに分類していきます。また、学習内容を【 】で明示することによって、その単元の学習に必要な情報活用能力の系統的な育成において、教科等の単元配列の変更も検討することもできます。

作成例

令和4年度

長野市立T小学校 情報活用能力育成 年間計画【第5学年】

情報活用能力育成の重点目標
伝える相手を意識して、情報を収集・整理・編集して、自分の思いを伝える児童の育成

学習目標	学習内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動スキル 情報を集めたり、発信したりする際、手段の特性を考慮して活用することができる。	A1 情報収集 A2 発信 A3 コミュニケーション A4 インターネット A5 アニメーション A6 音声 A7 動画	【国語】A5・A7・A8 「食べ物のさかんな地域」 「教えて、あなただけのこと」	【社会】A3 「食べ物のさかんな地域」				【国語】A1 「形が動く絵が動く」		【家庭】A4・A8 「食べて元気！ごはんのみそ汁」		【家庭】A6・A8 「めざそう買人物名人」		
探究スキル 情報の収集・編集・整理・分析や表現・発信の過程を組み立て、目標を意図して評価・改善することができる。	B1 情報収集 B2 編集 B3 伝達内容の構成 B4 表現の工夫 B5 受け手の意識 B6 学習環境 B7 評価	【理科】A3 「天気の変化」	【総合】B1・B2 「ふるさと○○の宝物をみつけよう」	【国語】B1・B4 「みんなが過ごしやすい町へ」	【社会】B2 「食べ物のさかんな地域」		【国語】B2 「新聞を読もう」 【国語】B4・B5・B6 「よりよい学校生活のために」	【国語】B2 「流れる水のはたらき」	【国語】B2 「固有種が教えてくれること」		【社会】B1 「情報化した社会と産業の発展」	【社会】B1 「情報化した社会と産業の発展」	【社会】B1 「わたしたちの生活と環境」
プログラミング コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に関連付けて考えることができる。	C1 情報の分類 C2 情報の分類 C3 情報の活用 C4 問題解決の本質 C5 探究活動 C6 データの活用 C7 情報技術の発展					【算数】C4 「偶数・奇数」				【算数】C2 「割合」			【算数】C2 「図形をまわすプログラム」
情報モラル 情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとする。	D1 コミュニケーション D2 法と権利 D3 保護と安全 D4 ルール・マナー D5 セキュリティ D6 著作権 D7 情報技術の発展	【NETモラル】D4 「ネットいじめやトラブルにあわないために」	【道徳】D 「あいさつって」			【NETモラル】D2 「プライバシーの尊重」	【NETモラル】D1 「ネットリアルも大切に」						

家庭科で作りたいメニューを調べ学習する前に、画像やレシピの著作者の権利を尊重するNETモラルを扱う必要がありそうですね。

【B2】読み取りでは、新聞に載っているグラフを国語で扱うのと並行して、理科の実験結果のグラフの読み取りを扱うとよさそうですね。

総合で地域の方にふるさとの宝物をインタビューに行く時に、インタビューのポイントを国語で学んだことをと活かせそうですね。

情報活用能力の系統

- ・B3: 調べたことを組み合わせ、自分たちの発表の仕方を工夫する。
- ・B4・B6: 相手が納得できるように論理を組み立て、内容を工夫したり、相手の反応を見ながら伝えたりすることができる。
- ・B5: 伝えたいことと自分たちの生活と関連付けて考え、表現を工夫することができる。
- ・B6: 伝える相手に合わせて発表内容を構成することができる。
- ・B4: 集めた情報から使いたいものを選び、伝える順番を組み立てることができる。
- ・B6: 相手を意識して、伝え方を工夫する。

※A5・A6・A7は、重点を置いたスキルの学習内容に対応

実践事例(低中高の情報活用能力から見た関連単元)

6年 総合的な学習の時間「ふるさと○○の宝物をみつけよう」(B3-B4-B6)

- 【わらい】身近な地域の歴史を調べ、分かったことや考えたことを発信する。
【スキルを意図した学習展開】
①学年の活動内容を定める。
②地域探検をして得た情報をタブレット端末で撮影・保存する。
③タブレット端末に蓄積した記録から、保護者や地域の方に伝えたい内容を選び、伝え方について決める。
④保護者や地域の方に伝えることを意識して、シナリオを考え、発表の仕方を工夫する。

3年 社会「火事から身を守る」(B5-B6)

- 【わらい】地域の人の安全を守るために、消防などの関係機関は相互に連携して緊急時に対応する体制をとったり地域の人々と協力したりが火事の防止に努めている。
【スキルを意図した学習展開】
①単元を責く学習課題を確認する。
②消防署の見学ではタブレット端末で撮影・保存する。
③単元の終末に自分たちでできることを短歌にし、消防署の方にお礼として伝える。

2年 生活科「大きくなったぼく わたし」(B1-B4-B6-A1-A5-A7)

- 【わらい】小さいころを振り返ったり赤ちゃんを抱っこする体験をしたりする中で、自分の成長には多くの人々の支えがあったことを知り、感謝とよきをもって生活しようとする。
【スキルを意図した学習展開】
①家族や身近な人に自分の小さいころのことをインタビューする。
②メモを整理しながら、友だちとの内容を話す確認する。
③自分が話す内容に合わせて、タブレットで撮影(保存)した写真を見せながら発表する。

探究スキル

2. 教育課程を考えよう。(カリキュラムマップを作ろう)

ワーク

1-③ 単元配列表をシンプルにして、「どのようにつなぐか」を検討しよう。

つながりをもとに単元配列表をシンプルにすることで、重点的に取り組むポイントが見えやすくなります。単元配列表が線でいっぱいになると、複雑になり、実現の可能性が低下します。そのため、特に「重点とする資質・能力は何か」などの視点を決め、線を精選していくとよいでしょう。

シンプルになった単元配列表(カリキュラムマップ)をもとに、つながれた単元同士を「どうつなぐか」を検討しましょう。また、地域資源の活用やICTの活用ができそうな単元についても、考えてみましょう。

作成例

令和2年度 ○○中学校 2学年 年間指導計画

月/教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数	
行事						山王祭			校友会正副会長選挙	校友会正副会長選挙				
国語		多様な方法で情報を集めるよう	多様な方法をしよう			気持ちを込めて書く			話し合ってみよう	書き手になって書く			140	
社会							近畿地方						105	
数学													105	
理科													140	
音楽				クラス合唱、学年合唱発表会		クラス合唱、学年合唱発表会							35	
総合	<p>「はたらく」ことを考える (70時間) ・どんな仕事があるんだろう ・「はたらく」人たちの思いに触れる</p> <p>＜総合科学習＞ ・自分たちで企画、運営することで課題解決を目指す ・グループでの活動を通じて、各組の中で自分の役割を認識した行動を学ぶ</p> <p>＜職業体験学習＞ ・社会全体の広い視野から自分を知り、自分が大得意にしたい仕事を発見することで、自分の可能性や課題を思い出す。 ・体験学習の中で、働くことの面白さや楽しさや苦労や苦しみや不安や心配を思い出し、自分の生活を振り返り、支え方や自分らしさを発見しにつなげるようにし、進路学習の一環として自分の</p> <p>＜キャリア学習＞ ・職業に関する情報を収集し、自分の将来の職業について考える。 ・職業に関する情報を収集し、自分の将来の職業について考える。</p> <p>＜職業学習＞ ・職業に関する情報を収集し、自分の将来の職業について考える。 ・職業に関する情報を収集し、自分の将来の職業について考える。</p> <p>＜職業学習＞ ・職業に関する情報を収集し、自分の将来の職業について考える。 ・職業に関する情報を収集し、自分の将来の職業について考える。</p> <p>＜職業学習＞ ・職業に関する情報を収集し、自分の将来の職業について考える。 ・職業に関する情報を収集し、自分の将来の職業について考える。</p>													70
美術													35	
保健													105	
技家							デジタル制作(技)	デジタル制作(技)					70	
英語									プレゼンテーション(英語)	プレゼンテーション(英語)			140	
道徳													35	



生徒たちが修学旅行で京都の街並みを実感できるように、社会科の近畿地方「古都の成り立ちと現在」では、写真など視覚的な教材を多く使いたいと思います。



職場体験後のお礼状が書けるよう、国語「気持ちを込めて書こう」では、生徒が「相手や目的を意識して書く」とはどういうことか具体的に考える場を十分に確保したいと思います。

地域資源の活用やICTの活用ができそうな内容についても、考えてみましょう。



コロナ禍で例年のような職場体験はできない。地域の方々に学校に招いて、仕事に対する思いを語っていただくのはどうだろう。

英語のプレゼンテーションでは、生徒がICTを活用しながら発表する場が作れそうだ。

3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

1 「主体的な学び」を具体的にイメージしましょう。

「主体的な学び」の視点は、学習指導要領解説で次のように示されています。これを具体的な子どもの姿や子どもの言葉にして考えてみましょう。その姿や言葉を引き出すためにどのような手立てができそうか、考えやすくなります。

【主体的な学びの視点】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

(学習指導要領解説 総則編 第3章第3節1の(1))

【主体的な学びにつながる言葉(例)】



「先生、今日は〇〇をすることになっていたよね。」



「私は、今日は〇〇について調べてみたい。」



「ぼくは、こういうことが分かった。次はこういうこともしてみたい。」

など

他にも、主体的な学びにつながる言葉にはどんなものがあるか、具体的な子どもの言葉で考えてみましょう。



【主体的な学びを実現した子どもの姿】として、

自分の学びをコントロールできることが期待されます。具体的な姿として、以下のようなものが考えられます。

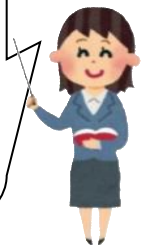
 主体的な学び 興味や関心を高める	 主体的な学び 見通しを持つ
 主体的な学び 自分と結び付ける	 主体的な学び 粘り強く取り組む
 主体的な学び 振り返って次へつなげる	

((独)次世代型教育推進センター資料をより作成)

「子どもたちにこんな言葉を言ってもらいたい」と考えると、そのための授業改善が考えやすくなりますね。

さらに、

「先生、今日は何やるの?」や「先生、何すればいい?」などの受け身の言葉を主体的な学びにつながる言葉に変えていくには、どのような授業改善ができそうかについて、考えてみましょう。



3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

2 「対話的な学び」を具体的にイメージしましょう。

「対話的な学び」の視点は、学習指導要領解説で次のように示されています。これを具体的な子どもの姿や子どもの言葉にして考えてみましょう。そして、その姿や言葉を引き出すためにどのような手立てができそうか、考えてみましょう。



【対話的な学びの視点】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

(学習指導要領解説 総則編 第3章第3節1の(1))

【対話的な学びにつながる言葉（例）】



「先生、友だちの考えも聞いてみたい。」



「私は〇〇と考えます。理由は〇〇だからです。」



「Aさんの考えもいいね。（自分の考えと比較して）こういうことが考えられた。」

など

他にも、対話的な学びにつながる言葉にはどんなものがあるか、具体的な子どもの言葉で考えてみましょう。

【対話的に学びを実現する子どもの姿】として、異なる様々な他者と対話することが

期待されます。具体的な姿として、以下のようなものが考えられます。

	対話的な学び 互いの考えを比較する
対話的な学び 多様な情報を収集する	対話的な学び 思考を表現に置き換える
対話的な学び 多様な手段で説明する	対話的な学び 先哲の考えを手がかりとする
対話的な学び 共に考えを創り上げる	対話的な学び 協働して課題解決する

((独)次世代型教育推進センター資料をより作成)

グループの意見交換で「先生、終わった。次はどうすればいい？」などの姿を対話的に学ぶ姿に変えていくには、どのような授業改善が考えられるでしょう。例えば、

○「自分の考えをより確かなものにしたい」等の目的意識をもって意見交換できるようにする

○「どこに焦点を当てて自分の考えと比較するのか」等の視点を明確にする

などが考えられます。

他にはどのようなことができそうか、考えてみましょう。



3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

3 「深い学び」を具体的にイメージしましょう。

「深い学び」の視点は、学習指導要領解説で次のように示されています。これを具体的な子どもの姿や子どもの言葉にして考えてみましょう。その姿や言葉を引き出すためにどのような手立てができそうか、考えやすくなります。



【深い学びの視点】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

(学習指導要領解説 総則編 第3章第3節1の(1))

【深い学びにつながる言葉(例)】



「(まとめると・情報を精査すると) つまり、こういうことだね。」



「〇〇ならば、こういうことも考えられるのではないだろうか。」



「〇〇だから、次はこうすればよさそうだね。」 など

他にも、深い学びにつながる言葉にはどんなものがあるか、具体的な子どもの言葉で考えてみましょう。

【深い学びを実現する子どもの姿】として、自分の知識や技能を相互につなげることが期待されます。具体的な姿として、以下のようなものが考えられます。

深い学び	思考して 問い続ける	深い学び	知識・技能を 習得する
深い学び	知識・技能を 活用する	深い学び	自分の思いや考 えと結び付ける
深い学び	知識や技能を 概念化する	深い学び	自分の考えを 形成する
深い学び	新たなものを 創り上げる		

((独)次世代型教育推進センター資料をより作成)

深い学びを実現するために、どのような授業改善ができるか、考えてみましょう。例えば、

- 対話的な関わりのある授業展開の構築
 - 自分の考えに根拠をもって、分かりやすく表現する活動の設定
 - 広がった知識を整理したり順序だてたりする活動の設定
 - 学習したこと振り返り、学習問題に対する自分の答えについて熟考する場面の設定
- などが考えられます。

他にはどのような授業改善ができそうか、考えてみましょう。



3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

ワーク

4 授業分析から「主体的・対話的で深い学び」について考えよう。（校内研修）

授業での子どもの学びの姿を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に分類する授業研究会を行っていきましょう。3つの学びの視点を養うことにつながります。

手順（例）

①研修の説明【全体】（5分）

②協議【グループ】（20分）

③共有【全体】（10分）

④授業者自評【全体】（5分）

⑤振り返り【全体】（5分）

①研修の説明

研修担当が目的と流れについて説明する。

動画で詳しく

NITS 研修プランA4

③共有

自分のグループと他グループの違いに着目して説明を聞く。

④授業者自評

「②協議」や「③共有」を受けて、授業者による振り返りを行う。

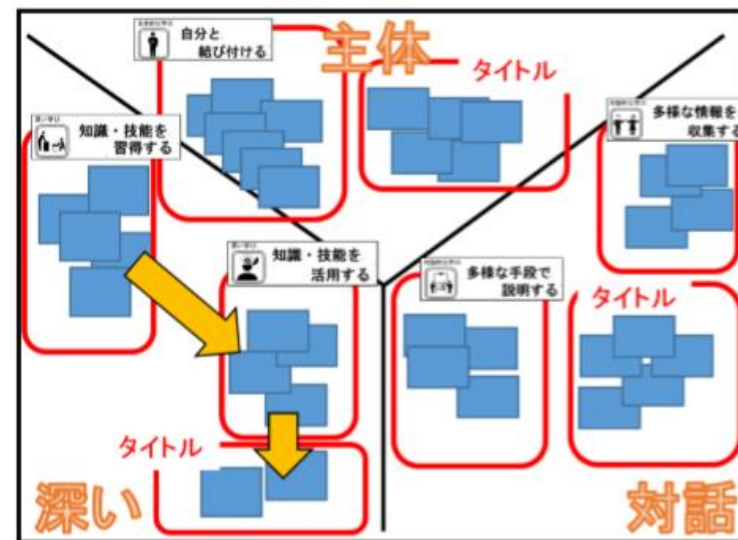
⑤振り返り

本時の研修を通して学んだことを共有する。

②協議（グループ）

- 児童・生徒の学びを付箋に書き、Yチャート（模造紙など）上に分類する。
- 児童・生徒の学びにタイトルを付ける。

（模造紙のイメージ）



どのような活動や支援が3つの学びにつながるのかを子どもの姿から見取ることで、日々の授業改善につなげていきましょう。



3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

5 【事例紹介】地域素材を活用した教材開発(地域との連携や協働を含む)

C中学校の総合的な学習の時間では、高校との接続を踏まえながら、系統立てた全体計画を作成し、地域素材を活用した探求課題に取り組んでいます。

右は、1学年「長野市で生きる私」をテーマに農業体験学習として行った「キセキの味噌復活！プロジェクト」の事例です。

教材開発のポイント

- ・小学校6年生で体験した台風災害で、地域に起こった具体的な事実と出会い、災害からの復興や農業の振興に取り組むプロジェクトに、学校として参加し、実際に活動する中で自分や学年の願いを実現していく。
- ・災害が起こるメカニズムや被害の実態、復興への取組等、幅広い学習内容の中で、生徒自身が問いを立て、調査や体験を通して、問いの答えを見出す学習を仕組む。
- ・「被災した味噌蔵の復活」という、分かりやすいテーマを設定し、そのプロジェクトに取り組む味噌蔵の社長や食育を広めるNPO法人の方などとの関わりを通して、人とつながりながら、願いを実現する過程について実感を伴って理解できるようにする。

地域の具体的な事実との出会いを大切に、実際の活動を通して、生徒自身が立てた問いの答えを見つけ出していく学習展開、人とのつながりによって実感を伴った理解ができるようにしている点などが、参考になりますね。

詳しくはポータルサイトから「長野市の教育」をご覧ください。

「味噌の復活は復興のシンボル」「今度は自分たちで考えていきたい」 (11月9日・総合的な学習)

C中学校

自らが設定した「問い」を追究する楽しさを実感できる総合的な学習の授業づくりを目指します。教師主導ではなく、生徒の声や思いを大切に、授業を展開していきます。



【授業の様子から】

生徒たちと共に「キセキの味噌復活！プロジェクト」に取り組んでいるNPO「コラボ」の方々も参観し、生徒にアドバイスをいただきました。

【生徒の追究の様子】

イメージマップの書き込み

A生
味噌作り見学・体験→キセキの味噌の魅力を調べる→大豆作りから味噌作りまでのことをまとめたパンフレットや動画を作成する→5期生(後輩)に紹介する

振り返り (学習カードより)

N生: 今までのプロジェクトの内容は先生が教えてくださっていたけど、これからは自分たちなので、気をひきしめていきたい。
R生: ボランティアなどに参加するとき、行事としていくのではなく自分が何のために参加しているのか、何のためのボランティアなのかを考えたい。
M生: 味噌の復活は復興のシンボルになるだろうし、大豆で何か作って被災した方やOさんにふるまいたい。

【イメージマップの実際】



【授業を終えての授業者の思い】

O〇さんと一緒に育てた大豆を使って「味噌をつくりたい」という生徒たちの強い思いを実感できたことが嬉しかったです。味噌を作ることは、「復興のシンボルにつながる」、「今まで活動を応援してくださったOさんやIさんへ感謝の気持ちを伝えられる」など、活動の意味まで考えられていた生徒たちの姿に感動しました。一つ一つの活動に、どのような意味があるのか、生徒に問い返しながら一緒に活動を考え、進めていきたいです。

【参観していただいた皆様の声】

- 関わった地域の方を招いての授業は素敵でした。
- 味噌について非常に興味・関心をもって取り組んでいることが、活動の様子から伝わってきました。
- 1時間の中で、2つシンキングツールを使って考えることは、時間的に難しかったようです。

3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

6 【事例紹介】多様な教育方法を活用し、教科間の関連を意識した授業設計 (ICTの活用①)

C中学校では、右の活用例のように各教科の様々な場面でICTを活用しています。ICTを活用した1学年社会科「武士の台頭と鎌倉幕府」の実践例を紹介します。

ICT活用した授業の様子

生徒は、一人一台の端末をもって授業がスタートしました。

- ・導入の【ペア学習】では、各自の端末に送られた写真を見ながら比較し、話し合う姿がありました。
- ・追究の【個別学習】では、オンライン上で自分の考えを記入しました。画面には他の生徒の考えも更新されるので、誰がどんな考えを持っているか確認することができます。【協働学習】では、同じ考えを持つ生徒同士が集まって、理由を説明し合ったり、別の考えと比較したりする姿がありました。
- ・まとめの【個別学習】では、学習内容に関わる振り返りと学習活動に関わる感想をオンライン上で記入し、画面を通して共有しました。

【C中学校のICT活用例（一部）】

- ビデオ会議機能を利用した遠隔授業
- 生徒端末で作成したプレゼンテーションソフトを用いて全体発表
- 作成した教材動画を配信
- 投稿したプレゼンテーションソフト等のファイルに同時に書き込む協働学習
- 学習内容の記録ポートフォリオ機能として活用



ICTを活用を進めることで、教師も子どもたちも個々の考えを容易に共有できるようになります。そのため、理由の説明や考えの比較等の協働学習に多くの時間を使うなど、授業展開の工夫が可能になります。また、ポートフォリオとしても活用できるので、個に応じた支援にもつながります。

段階	学習活動	実際の様子
導入	<p>○平安時代と鎌倉時代の様子を3枚の写真から比較し、ちがいを話し合う【ペア学習】</p> <p>【学習問題】 平安時代と鎌倉時代にはどのようなちがいがあるのだろうか？</p>	<p>手元の画面を見ながら、「ちがい」を指差しながら対話する姿が見られた。服装や指導者、住居などについて気づく生徒が多かった。</p>
追究	<p>【学習課題】 ①政治の仕組み②人々の暮らし③文化の視点から、平安時代と鎌倉時代のちがいをPPに書き込んでみよう。</p> <p>【個別学習】 ・オンライン上で各視点のスライドにあるテキストボックスにちがいについて気づいたことを同時に記入していく。【使用ソフト：PP】</p>	<p>人々の暮らしのちがいを一言でまとめると</p>
まとめ	<p>○視点ごとのグループに分かれて2つの時代のちがいについて、「同じ気づき」について記入したテキストボックスを画面上で移動させていく。【協働学習】</p> <p>○同じようなちがいについて、テキストボックスをまとめた生徒間で、そう考えた理由について説明し合う。</p> <p>【協働学習】 ・「様々な宗教を信じるようになった」と記入したのは、様々な宗派が信じられるようになったからです。そのことは教科書の…に示されています。</p>	<p>画面の拡大図</p> <p>様々な宗教を信じるようになった。(…)</p> <p>仏教の宗派が増えていき、信仰されるようになった。(…)</p> <p>新しい仏教が広まった。</p> <p>画面に書かれた気づきについて、手元の資料集等を見ながら、自分の考えを説明し合う姿が見られた。</p>
まとめ	<p>○Teamsの資料提示を行った投稿欄に</p> <ol style="list-style-type: none"> 今日の学習でわかったこと PCを使って学習してみた感想 <p>を記入する。【個別学習】</p>	<p>Teamsの「返信欄」にふりかえりを記入</p>
成果と課題	<p>【○成果】 ・Teamsを利用することで、同時編集による協働学習が可能になり、生徒の追究意欲が高まった。また、ふりかえりを返信することでポートフォリオとしての機能を持たせることができた。</p>	<p>【▲課題】 ・機器への操作が慣れていないと、タイピングに時間がかかってしまった。協働して話し合う時間を十分に確保することが難しかった。</p>

3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

7 【事例紹介】多様な教育方法を活用し、教科間の関連を意識した授業設計 (ICTの活用②)

T中学校のS先生は、研究主任として、「生徒自らが追究したくなる問いを生み出す授業づくり」を研究テーマに実践を積み重ねています。右の活用例のように各教科の様々な場面でICTを活用しています。

ICTを活用した2学年社会科「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の実践例を紹介します。

【T中学校のICT活用例（一部）】

- Google Earthを使用して社会科学習
- 教師が投稿したファイルに同時に書き込む協同学習
- Google Classroomを使って授業の振り返りを入力。記録を蓄積してポートフォリオとしても活用

ICT活用した授業の様子

子どもたちは、一人一台端末を開いた状態で授業がスタートしました。

- ・追究の【個別学習】の場面では、それぞれの端末に送られた資料を見ながら、自分の選んだ理由をオンライン上に入力していきました。
- ・続いての【協働学習】の場面では、誰がどんな考えをしたかを確認しながら、自分と同じ考えの友だちや異なる考えの友だちに対して、コメントをやり取りする姿がありました。
- ・まとめの【個別学習】では、学習内容に関わる振り返りと、今後さらに考えたいことや知りたいことをオンライン上で記入し、さらに友だちが何を書いたか共有していました。

ICT端末の活用によって、資料を高精細な状態で送ることができました。一人ひとりが自由に画面を拡大しながら学ぶことができます。また、考えの共有が容易にでき、協働学習に多くの時間を使うことができました。



Google Jamboard を
利用した実践例

授業日 令和4年12月21日（水） 授業学級 2年3組 26名
 授業者 T中学校 S教諭
 単元名 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 本時の位置 全8時間扱い中第1時
 本時の主眼 ザビエルの来航時、他にも一緒にやってきた人たちがいたはずと気づいた生徒が、南蛮屏風から、ザビエルの来航と同じころ、どのような人たちが日本にやってきたかを確かめることを通して、多様な人々が海外から来航していた様子を大観することができる。

段階	学習活動	実際の様子
導入	○ザビエルはどうやって日本までやってきたのか考える 【ペア学習】 【学習問題】 ザビエルの他に、どんな人たちが日本にやってきたのか？	教師が出題したクイズ（ザビエルの目のパーツだけで、誰かなのか当てる）に取り組み、小学校での学習を想起しながら、ザビエルがどのような人物だったかを思い返していた。
追	【学習課題】 屏風を見て、どんな人が日本にやってきたのか確かめよう。 【個別学習】 ・屏風内の気になった人物を一人選び、画像と気になった理由を記入した付箋を自分のスペースに貼りつける。【使用ソフト：Jamboard】	資料を拡大させじっくりと見て、自分の気づきを入力していた
究	○自分の友のシートを見て、共感したこと、疑問などを付箋で追加する。 【協働学習】 いろいろな動物を連れてきているので日本にはいない動物を自慢しに行くところだと思った。 →自分は動物と引き換えになにかをもらおうとしていると思いました。 →ペットにするかも →たしかに	画面に書かれた気づきについて、自分の考えを説明し合う姿が見られた。
まとめ	○Formsに 1 今日の学習でわかったこと 2 これからの学習で知りたいこと、考えたことを記入する。 【個別学習】	○この時代に動物も貿易に用いられていたのを知りたい。 ○ザビエルと同じ宣教師と乗組員、中には奴隷のような人もいた。ザビエルがなぜ日本に来ようと思ったのを知りたいです
成果課題	【○成果】 ・ICTを利用することで、高精細な資料を一人ひとりの生徒が自由に観察し、気づきの集約や共有ができ、単元を貫く問いにつなげることができた。	【▲課題】 ・ネットワーク環境の不具合で資料が扱えない場合にどのように備えるか。